

野球部・陸上競技部新監督に抱負を聞く

新シーズンに向け始動した大学スポーツ。専大でも今月から各部の合宿が始まり、本格的にスタート。昨季の雪辱を期す野球部と陸上競技部では、新監督が就任し、練習に励んでいる。1月からチームを率いている長谷高成泰・野球部新監督、加藤覚・陸上競技部新監督に意気込みを聞いた。



▲指示を与える長谷高監督(中央)

まず1部復帰を…野球部 長谷高成泰さん

今年の1月から野球部を率いる長谷高成泰新監督。このチームで初の監督業に挑むが、就任要請がきた時の心境を「正直驚いたがうれしかった。これまでお世話になった人たちに恩返しができるという思いで引き受けた」と語る。「選手たちに望むことは？」という質問に「常に感謝の気持ちを忘れないでほしい」と答えた。

昨年の春はあと一步のところまで1部昇格を逃し、秋はまさかの最下位の専大野球部。「他大学と比べても実力に劣りはない。技術よりも気の持ち方が大切」という謙虚な話し方の中に、1部昇格という目標に向けての確かな自信をのぞかせた。(末永 恵・文1)

(はせだか・なりやす)＝91年(平3)商学部卒。35歳。3年次に春季リーグ戦優勝、4年次には主将を務め、野球部の要として活躍。卒業後はいすゞ自動車プレーし、02年には内野手兼コーチとして都市対抗野球優勝に貢献。同大会では橋戸賞(MVP)と首位打者を獲得した。



▲左端が加藤新監督

“箱根優勝狙える”チームに 陸上競技部 加藤覚さん

加藤監督は、日産自動車、ダイエーを経て昨季までは専大の助監督を務めていた。「監督になって責任の重さを実感している」と表情を引き締める。

新チームでは実業団の選手と同等の練習メニューを取り入れている。練習を黙々とこなす選手たちに声をかけながら、温かい眼差しを向ける加藤監督。「陸上は個人スポーツだが、駅伝はそうではない。自分でやろうと思えば伸びるし、それがチームの力になる。潜在能力の高い1年次生の力を伸ばしつつ、2年後には箱根で優勝を狙えるチームにしたい」と言う。

新監督のもと、箱根駅伝に挑む専大。常勝チームへの第一歩を、今踏み出した。(川本 麻美・文2)

(かとう・さとし)＝84年(昭59)商学部卒。4年連続で箱根駅伝に出場し、2、3年次は“花の2区”を力走。89年の全日本実業団駅伝で優勝など、輝かしい成績を残した。

部活拝見 体育会アイスホッケー部



▲スピードと激しいボディチェックが魅力(関東1、2部入替戦)

激しさこそが魅力 1部復帰に手ごたえ

アイスホッケーの試合を見たことがあるだろうか？ドラマにもなり、今や注目のスポーツとなったアイスホッケー。その本物の試合には、テレビでは伝えきれないインパクトがある。"氷上の格闘技、

と称されるのは決して大げさではなく、氷のリンクの側にいるにも関わらず、白熱する試合にその寒さすら忘れてしまう。

部員は合計27人。練習は週5日、新横浜などのスケート場で1日2時間汗を流す。冬場は防具を着け、実戦さながらのゲーム形式の練習を多く取り入れ、夏のオフシーズンには、屋外での走り込みなど基本的なフィジカルトレーニングを徹底的に行う。

厳しいトレーニングと、試合では一歩間違えば大ケガにつながりかねない激しいボディチェック。「その激しさこそがアイスホッケーの最大の魅力」と語る山本達也主将(法4・釧路江南高)。息もつかせぬ、素早い試合展開と、選手同士のぶつかり合いが、観客を魅了してやまないのだ。

現在は関東大学リーグの2部に所属。近年、リーグ戦を勝ち抜き、入れ替え戦までは順調に進むものの、あと1歩で1部リーグの大きな壁にぶち当たってしまっていた。しかし、年々選手層も厚くなり、今年は国体に多くの選手が出場するなど実力も伸びてきた。「自分はもう引退だが、後輩たちにはなんとしても1部復帰を果たしてほしい」と語る山本主将の言葉にも力が入る。

これからより一層の活躍が見られるであろう彼らから目が離せない。(関 淳弥・文2)

【ニュース専修2月号11面】

フェンシング 島村智博が堂々の2位 JOCジュニアオリンピックカップ 男子サーブル

第11回JOCジュニア・オリンピック・カップ・フェンシング大会が1月9日から12日まで駒沢総合体育館で行われ、男子サーブルで島村智博(経営2・東亜学園高)が2位入賞を果たした。

予選プールを順調に勝ち進んだ島村は、練習の成果を発揮したものの惜しくも決勝で朝日大の浅野に敗れた。

ほかにも、男子はサーブルで池澤春光(経営2・鳥取西工高)が4位、エペで小野誠幸(経営1・米沢東高)が7位。女子はフルーレで鈴木彩香(商1・埼玉栄高)が5位。これからのフェンシング部の中核を担っていく彼らが、どのような活躍を見せてくれるのか、期待に胸が膨らむ。(矢口 蘭・文1)

【ニュース専修2月号11面】

関東バスケットボール トッププレイヤー 4年次生さよなら試合 小野、上出、平山が 出場

関東大学バスケットボール連盟に加盟する大学の4年次生が4年間を締めくくるイベント「B-1 JAPAN さよなら試合」(主催=BOJ協会、協賛=専修大学)が1月24日、生田総合体育館で行われた。本学からは、昨年の関東リーグ戦で最優秀選手賞を受賞した小野学(商4・日大山形高)、上出浩之(経営4・駒沢大附苦小牧高)、平山稔(経済4・福岡大附大濠高)の3人が出場。選手との貴重な交流の場とあって、多くの「大学バスケット、ファンが集まった。

関東リーグで名勝負を繰り広げたトッププレイヤーが一堂に会し、オールスターゲームを行った。スーパープレーの続出に、会場は大盛り上がりだった。

試合前には小・中学生へのバスケットボールクリニック、ハーフタイムにはファン参加のアトラクションなども行われ、選手・観客共に思い出に残るイベントとなった。(松本 旬平・経済1)

【ニュース専修2月号12面】